



激動の 2020 年もいよいよ最終盤。さて、今号は石田先生のエッセイ、先月からの座談会の後編(バックナンバーもぜひどうぞ)、そして重要な年始の講義形態についてのお知らせです。

◆◆教員エッセイ◆◆

第 46 回 石田道彦先生 (社会保障法)

◆体験してみたイギリスの医療制度

前回の執筆(第 64 号)に続き、1 年半前の英国滞在時の話題です。

私の研究テーマは国民保健制度(NHS)の変遷で、制度を実際に体験することも滞在目的でした。1948 年に創設された NHS は費用を税で賄っており、受診時の負担がありません。しかし、受診まで場合によっては数カ月待たされると聞いていたので、家族には健康に気を付けるよう言っていました。結局、私が最初の患者となることに。日本で治したばかり歯の補綴がとれてしまい、近くの歯科医へ行きました。受付では、順番待ちだから一か月ぐらい待たなければならないかも、と説明されましたが、幸運にも当日キャンセルがあり、代わりに治療してもらえました。

数か月後、今度は子どもが尾てい骨を強打し受診することに。かなり痛そうです。住民は、かかりつけ医(GP)にまず受診しなければなりません。登録した GP に電話すると「負傷の扱いは別、予約はいらないのですぐに病院に」と言われ、急いで病院へ。日本ではとりあえずレントゲン検査となるのですが、担当医は子どもの足の動きや痛みの箇所をよく観察した上でレントゲン検査は行わず、市販の痛み止め薬を買うようにとの指示でした。対 GDP 比では医療費が日本と同水準のイギリスですが、医療資源の利用には大きな違いがあることを実感しました。

お世話になった医師たちも今は大変な状態のはず、いつかコロナ禍での対応を調べに再訪したいと思っています。



ウェールズにある A.ベヴァンの像
(戦後、NHS の創設に尽力した保健大臣)

法学類の年始の授業形態について

お知らせ

2021年1月16日・17日の二日間、大学入学共通テストが本学キャンパスにおいて行われます。新型コロナ対策のため、年明けの授業形態が通常と異なりますので十分注意してください。

1月4日(月)～7日(木) 対面かオンラインかは、必ず**各担当教員に確認**すること

1月8日(金)～14日(木) **原則オンライン**による遠隔授業

寒さを押しつけてキャンパスにたどり着いたところオンライン開講で一人ぽつねんと教室で画面を見る、というのはなかなか寂しいものかと思われます。確認を忘れずをお願いします。

また、冬季休業期間中の過ごし方については、世情を鑑み、感染対策を忘れずに、よく考えて行動してください。年明けもしくは共通テスト明けに、皆さんと無事に会えることを祈っています。



「法学類・遠隔授業への道」インフォーマル座談会（後編）



法学類で主に遠隔授業をサポートされている先生方をお呼びして、これまでの道のりに関するそれぞれのご感想をお聞きした座談会。前号に引き続きまして、後編を送りたいします（収録は11月中旬）。

授業をする側として、遠隔授業と対面授業、それぞれいかがですか？

丙：遠隔だと、学生さんの生の反応がわからないのが大変ですね。

乙：たしかに。オンデマンドはそもそも一方通行だし、同時双方向でもカメラオフしてもらってますもんね。

甲：プライバシーの問題がありますから。むやみにオンをお願いできないですね。

丙：この状況になって、ノンバーバル（※非言語的）なコミュニケーションが大切なんだなあ、と改めて痛感しています。

乙：教室に漂う「わからない」感、みたいなあれね（笑）

丙：そう。それがあると、ポイントを繰り返しておこうかなとか、ここはもう少し解説足そうとか、ad hocに対応できますから。

甲：逆にオンライン授業になってから、学生さんのチャットでの発言が盛んになった気もしています。対面時よりハードルが下がるのかな。授業終わりに提出してもらっているコメントの質も上がりましたよ。

丙：アーカイブ動画を繰り返し見て復習してくれる学生もいますしね。

丁：悪天候の時や体調がいまいちの時も、授業に参加しやすいという利点もありますね。

オンライン授業への対応に先生も学生も一生懸命でしたけど、第3Qから対面授業も増え、第4Qではほとんどの専門科目が対面授業になるようですね。

丁：第4Qから対面で開講しつつ同時配信もする、ハイブリッド型授業を実施します。

乙：いやあ、きついな……

丙：授業をサポートしてくれる学生アシスタントさん達がいないと絶対にやっていけないです。

甲：いや、本当に。講義室での機材の設定から、オンライン参加者の入退出管理、音声配信状況の確認に、録画データの処理まで。

丙：ご苦勞を掛けていますが、その分、皆さんこれからのデジタル社会でも即戦力の、優秀な人材ですよ！

全員：だよー！！

丙：状況によっては事実上無理なこともあります、私は基本的に対面歓迎です。やっぱり顔を見ながらのほうがやりやすいですし、授業していて楽しいです。

甲：私も対面がいいですけど、でも、前期のオンライン授業の経験を踏まえて、そこで使ったツールを後期も活用することにしました。

乙：お、レベルアップだ！

最後に一言。

丁：この混乱の中でも、学生の皆さんの協力のおかげで、法学類の授業は成り立っています。どうもありがとうございます。

乙：個人的には#GoToキャンパスみたいなmovementの主張には賛成できないけれど、声を上げていく姿勢は学生として大切だし、私もそういう当事者の声は聞きたいので、ひとまず何でも言ってほしいですね。応えられないこともあるでしょうけど。

丙：デジタル技術が苦手な人はいろいろと大変だと思いますが、これからの社会では避けては通れませぬし、慣れるためのいい機会だと前向きに気持ちを切り替えましょう。教員もね。

乙：わあ（・v・）

甲：こら（笑）。私はそれほど得意ではなかったんですが、慣れれば普通にできるようになりましたね。デジタルスキルは今後も間違いなく有用な能力なので、法学・政治学の知識とともにぜひ身につけてもらいたいです！

大学での学びに対するコロナ禍の影響が、いつまで続くかはまだ分かりません。法学類では今後も、授業提供のための様々な試行錯誤を続けていきます。

法学類HP
へGO!



- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部 学生課 (n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。